

# 育て教える



## 黒木一男

学生時代、勉強より馬の事に精進して  
いました。馬が好きで、馬に接したのは  
旧制高等学校一年の時からでしたが、大  
学に入學してからは、大学馬術部に十五  
六頭馬が飼育してあったことから、毎日  
馬を飼い馬に乗り、馬の手入れをする事に  
夢中になりました。そのうち、馬を調教  
(一般の人が乗れる様に教え、馴れる)  
する事になりました。

毎年農林省の牧場から数頭の新馬がい  
たどけていました。それらの新馬は、広  
い自然の天地に育った三歳の仔馬です。

人間で申しますと、愛情に満ち満ちた  
家庭で、人間の成長にふさわしい環境を  
与えられてのびのびと育ち、幼稚園に入  
園して来る幼児のようなものだと思われ  
ます。

私達調教にあたる者は、この純心無垢  
な新馬が、京都の貨物駅に到着する日を  
千秋の想いで待ちました。

新馬の血統・性質体格並びに毛色の特  
徴等は前もって書類で知らせて来てあり  
ますので、新馬に関する大体の予想は一  
応はつきますものの、私達はその新馬の

細部につきましては希望的姿を思い浮べ  
ながら、厩舎の準備をととのえます。新  
しい札に名前を書き、飼桶を新調し、馬  
の手入道具等も新しいものを用意する等  
この新入児に対する十二分の心からの歓  
迎の準備を致します。

御存知の先生方も多いと存じますが、  
馬は血統によりまして人相が否馬相がほ  
ぼ類型的にわかつています。それに毛並  
の特徴や体格の概要を書類で見ますと、  
長顔か丸顔か、気品のある顔か可愛い  
顔か、更に八トウ身か六トウ身かまで、  
その姿を描く事が出来ます。それは、私  
達が、幼稚園の新入園児を書類でしらべ  
て大体の概念をつかむ以上にはつきりと  
つかめます。尙初対面から馬は着物を着  
ていませんで、云わばまる裸でございます  
ます。それで服装や言葉遣等によつてご  
まかされる事なく私達が新入児を判断す  
る以上に正確判断が出来ます。裸と云う  
事は有難い事でございます。

新馬が駅につきまます時は、お出迎に参  
ります。私達人間だけが出かけるのでは

なくて、病氣している馬や、特にヤンチャで人に迷惑をかける馬は厩舎でお留守番ですが、その他の古馬は、全馬揃って参ります。大体は人通の少くなる夜参ります。

馬同志の初対面はイナナキで各自銘々致します。新入園児を大きい組の園児がお迎えする時の様なるこびと、なごやかさがございます。

新馬は駅から大学までハイヤーでと云うわけにはまいりませんので、歩いていただきます田舎の山や森や野原しか知らぬ新馬が初めて踏む都会のアスファルト星の代りにネオンの輝きですので、すべてが物珍らしく、更に身近に接した事のない電車、自動車が走りますので、戸まどい致します。それで古馬が前後左右に並んで、新馬が驚かぬ様、あわてぬ様、歩き方も速度をおとしていたわりながら大学まで御案内、御伴致します。誠に人間のすべての世界にあらましい風景でございます。新馬は真心こめて準備された各自の馬房におはりになります。厩舎は

真中に通路があり、通路の両側に馬房が並んでいますので、通路をはさんでお互が顔を合せる事になります。

それで新馬の向い側の表房には古馬の中の優等生を入れます。両隣は身近で顔と顔をつき合せる事の出来る間柄ですからここにも優等生を住ませます。向う三軒両隣とは人間の世界ばかりではないようです。これは新馬が新しい社会生活に入って正しい生活の仕方を見習うためです。共同生活に於けるの感化は、馬の世界でも幼稚園でも御同様でございます。しかし立派に仕込まれた馬の優等生は、人間で云えば模範的人物ですから、幼稚園の大きい組のお子様とは比較にならない程、出来上っていますので、立派なお手本を示してくれます。クラス編成をとらないだけにこの様な心くばりを致します。新馬が二、三頭の時には隣り同志の馬房に入れます。淋しがらせないためです。

これは隣同志の席に座らせると同じ考えでございます。この様に新馬の向う

四五軒両隣りを古馬の優等生の馬房と致します。この着席の仕方等、新入生の歓迎会、お誕生会等の時に用いられないでしょうか。

それからどの新馬を誰が調教するかと決定しなくてはなりません。どの幼児をどの先生が受持つかと云う事です。私達の馬の場合は、一頭の馬に一人の調教者と云う一対一の組合せです。それで或る意味から申しますと最も徹底した教育が行われる強味があります。その反面、強味は直ちに弱点ともなるおそれがあります。それは調教者の性格がよかれあしかれ直ちに馬の性格にうつると云う事です。教師と幼児が一対一の場合には、教師の性格が幼児の性格に大きな影響を与えますが、それ以上のものがございません。それは調教者が、馬の食事から、水（お茶）の世話は勿論、馬房の清掃から馬の手入まで一切を他人にたのまず自分で致しますので、園児は家庭から幼稚園に通いますし、同じ組の園児は一緒に多くの場合保育されます。即ち園児は家族

友人、社会の人々の影響を受けながら保育されますが、新馬は他の馬と切りはなしての一对一で教育されます。

短気な調教者に教育されると馬も短気になり、気の長い調教者に調教されますと、気長になります。茶目気のある調教者の馬はよくも似たものだと感じる程の茶目気を發揮する様になります。

そこで特殊な馬に育てず一般馬に育てる場合には、調教者は馬に対しては十二分の愛情を持ち調教の技術は身につけているのは勿論ですが、性格的には反対の性格をもった調教者と馬とを組み合わせます。

短気と短気を組み合わせますととんでもない短気な馬となるからです。のんびりとのんびりの場合も同様です。

この性格的に相反した人、馬の組合せですと、調教が終る頃には馬の素質変え得ぬにしても、割合中庸を得た性格に近づきます。更には、短気な調教者も逆に馬の気長に教育されて「短気は損気」の御教えを身につける様になります。教育

する事は一面教育される事ではないでしょうか。

三歳馬ですと、一般に脚が弱く、骨も軟かですからいきなり乗って教えるわけには参りません。無理しますと、脚の骨に瘤が出来たり致します。幼児にいきなり無理なオイチニ式の基本体操を厳格にさせられないのと同じでございます。しかし調教(おけいこ)は開始しなくてはなりません。

先ず馬に日常の生活指導を致します。牧場での生活と生活が一変しますので環境になれさせなくてはなりません。環境への適応です。

牧場にいる時には自由に運動していたのですが、これからは調教者(教師)の指導で運動をさせます。この生活、並に運動指導の時に、書類に書かれていた馬の性質と、現実の馬に対しての調教者の判断による性質とを考え合せながら、新環境に入った馬の性格をたしかめながら望ましい、しかも個性豊かな馬へと導き教えるのです。園児の身上調書をよくし

らべた上、目の前の園児の姿を考え合せて保育すると全く同じでございます。

馬に運動させる場合、特に馬を放つて馬と一緒に遊ぶ、鬼ゴツコの時等に、よく馬の個性があらわれます。馬は走る事に一つの特徴がある動物だからでしょう。調教者が鬼になり馬が逃げる場合に逃げ方逃ッブリ、仲々個性が出ます。逆に馬が鬼になった時の馳り方、探し方、馬の持つて生れた知能も共に發揮致します。この馬との遊びは調教上の重要な役目を果します。私はこの馬との遊びを、幼児の自由遊びの時の先生と幼児との関係に似たものがあると思います。

「万物の霊長たる人間のお子様の保育と、馬の仔の教育とを同一に考えるとはけしからぬ」との世のお父様お母様方のお叱りを覚悟しながらここまで書いて参りましたが、決して園児を馬に育てようと思つているわけではありません。唯人間も馬も動物である点だけはお許し下さい。

(鹿兒島大学附属幼稚園長)